

FIB-5 index と経カテーテル的大動脈弁留置術後の中期予後の検討

◆研究の目的と概要◆

重度大動脈弁狭窄症に対して経カテーテル的大動脈弁留置術は有用であるが、本治療の対象患者は高齢な方が多いです。そのため手術後にも死亡や心不全入院等のイベントを一定の割合で起こすことが知られています。本研究では、どのような方に術後イベントが起こりやすいかの予測因子について検討します。

◆対象となる患者さん◆

2015年1月～2021年6月に当院で重度大動脈弁狭窄症に対して経カテーテル的大動脈弁留置術を行った方。

◆研究に使用される情報◆

以下の患者さんの観察、診察および検査を実施し、この研究のデータとして活用します。

- ① 患者さんの背景情報（年齢、性別、身長、体重、BMI、ADL、活動度、病歴）
- ② 血液学的検査（ヘモグロビン、AST、ALT、ALP、Plt）
- ③ 血液生化学的検査（アルブミン、クレアチニン、eGFR）
- ④ 心電図検査
- ⑤ 心臓超音波検査
- ⑥ 造影CT検査
- ⑦ 服薬データ
- ⑧ 手技データ（アプローチ部位、手術時間）
- ⑨ 手術後のイベント（全死亡、心血管死、心不全入院、出血）

◆情報の研究利用開始日◆

2023年10月1日以降

◆研究方法◆

本研究は過去の診療録を利用します。

-
- * 研究成果は学会等で発表を予定していますが、その際も患者さんを特定できる情報は利用しません。
 - * 本研究に関するお問い合わせや、カルテ情報の利用についてご了承いただけない場合、

以下の問い合わせ先までメールでご連絡ください。ただし、解析中または、既に学会等で発表されたデータについては、削除できないことがありますことをご了承ください。

【問い合わせ先】

公益財団法人大原記念倉敷中央医療機構 倉敷中央病院

循環器内科 研究責任者 生田 旭宏

E-mail: kenkyu★kchnet.or.jp (臨床研究センター)

(★を@に変換して使用してください)

この研究課題で利用する残余検体・診療情報等の利用については、医の倫理委員会によって当該既存試料を用いなければ研究の実施が困難である等の理由が認められ、実施についての承認が得られています。

※【問い合わせ先】では、次の事項について受け付けています。

- 研究計画書および研究の方法に関する資料の閲覧（又は入手）ならびにその方法（他の研究対象者の個人情報および知的財産の保護等に支障がない範囲内に限られます。）
- 研究対象者の個人情報についての開示およびその手続
- 研究対象者の個人情報についての利用目的の通知
- 研究対象者の個人情報の開示、訂正等、利用停止等について、請求に応じられない場合にはその理由の説明